

「本ギャフ使用に於いて一番大切な事」＜ロープとラインの絡みについて＞

本ギャフ使用に於いて一番大切な事は「ロープを弛んだ状態に維持する事」です（前項＜本ギャフを使いこなす為のコツ＞の2）にリンク）。これがちゃんとできていれば魚は掛かりますし、厄介な事は起こりません。しかしできていないと、ギャフが掛からないばかりか、以下のような巻き付きトラブルが起こり得ます。

間違った使い方をするとロープがラインと絡む危険が高まります。間違った使い方とは、「ロープを張り気味にして、引っ掛けようという意識に基づく使い方」です。このやり方は完全な間違いですから、やってはいけません（HP「本ギャフユーザーに対する助言」＜本ギャフを使いこなす為のコツ＞やビデオ等で指摘済み）。これは当会ギャフを始めて使う人が一番やりがちなミスです。間違った使い方をすると、ギャフがラインの周りを回り、その結果ロープが数回ラインに巻き付き、ギャフはその下にぶら下がっている（上から引っ張っている）、という現象が、比較的簡単に発生します。この現象及び対処法は、此のビデオの中にバッチリ収録されていますのでご覧ください（UP 済みの「落とし込みダブルギャフ（特許）の使用法 撮影失敗編」の中の該当箇所を抜粋したもの）。

水面は波で上下し、魚は下に突っ込んだり、浮いたり、それに合わせて、竿を立てたり、倒したりする訳ですから、魚がドラッグを引き出さなかったとしても、人間と魚との距離は常に3mも変わりますが、これに対して、ロープの方は、一定箇所を握ったままだと、手を伸ばしたり、引っ張ったりしても、調整能力は1.5mも無い訳です。「ロープを張り気味にして・・・」だと、水面/魚が低位置に来ると、結局魚とギャフが離れ、ギャフは掛からないばかりか、ギャフが空中に浮いたまま、魚は暴れまわるという事になり、此れだと魚の動きにより、ギャフに巻きモーションが発生し、ギャフが空中でラインの周りを回り、結果ロープがグルグルとラインに巻き付く、巻き付き現象が起こる危険性が高まります。此れは、落としギャフなのに落とさないで、ギャフを空中に浮かせて維持した結果起こるトラブルです。

正規の使い方は、「ロープを引くときのみロープを掴み、引き、フッキングしなかったら、ロープを手から放して、ギャフを落とす」であり、この動作を繰り返します。この単純な動作が本ギャフのビギナーはなかなかできません。ロープの一定箇所を握ったまま、フッキングしようとしています。此れだと、ギャフが魚の下に行っていない、届いていない状態になり、魚が掛からないばかりか、前記のような巻き付きトラブルのもとになります。アワセを入れてもフッキングしなかったら、ロープを手から放し、落さないでダメです。即ち、**一番重要な事は、ロープを弛んだ状態（＝垂れ下がった状態）に維持する事です。**弛んでいるという事は、ガイドが魚の口元に行っているという事＝ギャフが魚の下に行っているという事です。ギャフがちゃんと届いていれば、魚が潜行し、目視見えなくても又アワセを入れな

くても、勝手に掛かる事もあります（→シイラビデオ6、3：02参照）。

それでロープが出過ぎたら、ロープを引いて、それを、竿を持つ手の人差し指又は親指に掛けて一時保持し、手を伸ばしてその先を掴み、引き、間合いを詰めます（＜本ギャフを使いこなす為のコツ＞及び各ビデオ参照）。此れがやれて初めて使いこなせたと言えます。此れがやれば、高さがある場所での一人での取り込みは、棒ギャフ（ランディングシャフト方式）に比較して、本ギャフは圧倒的に有利です。

この巻き付きですが、本ギャフの実使用に於いて大した問題ではありません（が、初めて使う人は本ギャフで魚を掛けたことが無く、ギャフに対する信頼もない為、予期しない現象の出現に慌て、ロープを掴んだまま対応不能の事態も）。ギャフは一定の重みを持たせて作っており、引っ張ってしまっているから落ちないだけで、引っ張りを止めれば、数回巻き付いていたとしても、ギャフは自らの自重で落ち、魚の下に行きますから、ギャフとしての機能は有効、ガンガンアワセを入れれば掛かるのは時間の問題です（ビデオにある通り）。このギャフは細かい事を気にする必要はありません。